

リュフト  
(一社) LYHTY  
代表理事 CEO

PICK UP

THE PERSON

# 佐々木 健治

KEY WORD

至誠

— shisei —



佐々木代表は、恩師との出会いから「何かしらの不遇を抱えた多くの子どもたちの心に寄り添い、時には背中を押しながら共に歩いていきたい」と、教員の道へ。  
そして、一人の子どもも見捨てない社会にするためには、学ぶ場にも多様性が必要だと実感し、独立に至った。現在は不登校や障がいのある子どもたちを対象とした施設を運営している。  
また、今後は教育のみならず、子どもたちが育つ上で大きく影響を受ける環境や社会にもより一層目を向け、様々な角度から、より良い社会の実現につながる事業展開を考えている。  
幕末の志士、吉田松蔭の「至誠にして動かざる者、未だ之れ有らざるなり」の言葉を胸に、真心を大切にしたい取り組みで社会を変えていきたいと挑戦を続ける。

「至誠にして動かざる者は  
未だ之れ有らざるなり」

# すべての子どもに灯を 可能性を輝かせ、未来を創っていく



リュフト  
LYHTYとは、美しい輝きを放つ灯籠。

佐々木代表が手掛ける「一般社団法人LYHTY」。「LYHTY」とは、フィンランド語で「灯籠」であり、【灯】は子どもの可能性・明日を生きる希望、【籠】は子どもたちを守り育てる大人・社会。それらが見事に調和し、美しく輝く社会が【灯籠】という意味が込められている。子どもたちはそれぞれに可能性の灯をもっているが、生まれた環境や障がい、性別や考え方の違いなど、様々な要因に影響を受けることで可能性の灯を見失うこともある。そうならないためにも、すべての子どもたちが、上質な和紙のような大人や環境に柔らかく包まれながら、自分の内なる可能性の灯をより一層輝かせることのできる社会を創造する——それが「LYHTY」の理念なのだ。



## 佐々木 健治

代表理事 CEO

リュフト  
一般社団法人 LYHTY

URL : <https://www.lyhty.or.jp>  
Mail : [info@lyhty.or.jp](mailto:info@lyhty.or.jp)

LYHTYschool  
-IRORI-

石川県金沢市の上町 26-52  
Mail : [info@irori.lyhty.or.jp](mailto:info@irori.lyhty.or.jp)

児童発達支援・放課後等デイサービス  
-ともしびの家-

石川県金沢市諸江町下丁 215-2  
Mail : [info@tomoshibi.lyhty.or.jp](mailto:info@tomoshibi.lyhty.or.jp)



HP Facebook HP Facebook



## SPECIAL INTERVIEW

「すべての子どもに灯を」を理念に掲げて活動をしている「LYHTY」。何かしらの理由で学校に行っていない子どもが通える学び場の運営や、障がいのある子どもたちのための放課後等デイサービスや児童発達支援、さらに保護者や教育者のための様々な教育活動を展開している。教員を目指してその夢を実現させたという佐々木代表。独立し、新たなフィールドで活躍する今も、誰かの支えになりたいとの想いは変わらない。志垣太郎氏が代表のもとを訪問し、事業に懸ける想いを伺った。

まずは、佐々木代表の歩みから伺います。少年時代はどのような職業に憧れていましたか。

小学生時代には獣医を目指していました。実は幼いころ複雑な家庭環境で育ちまして、世の中には何かしらで困っている、助けを求めた声を受けられない存在がいると、身をもって感じていました。当初獣医を目指したのも「声をあげられない動物を救いたい」との考えがあったからだと思います。私自身も荒れた児童期を過ごしましたが、学校で恩師となる先生に出会いまして。先生は荒れた自分にも皆と分け隔てなく接してくれ、温かさやぬくもりを与えると同時に、自分を見失い生きる希望を見出せなかった私に、人としての尊厳を取り戻させてくれたように感じます。卒業後も何かと目を掛けて下さり、その先生の影響で、教育の道に進むことを決意しました。

ほう。それは文字通り恩師と呼ぶべき方ですね。良い方と出会われましたね。

本当に感謝しています。ただ、何かしらの不遇を抱えた子どもたちの背中を押したり、一緒に寄り添って歩いていったりすることが自分の本来の目的であって、教員という仕事は手段の1つでしかない、との想いも当時からあったんです。実際に教師になった後も、学校に馴染めない子や家庭環境の複雑さから学校に来られなくなってしまう子どももいたりして——私自身も教員として働くこと自体はとても充実感があったのですが、その部分に目がいくと、自分を止められなかった。それで、学校に適応できない子どもたちの学びの場を確保する、一人たりとも子どもを見捨てないために、子どもたちの学ぶ場にも多様性が必要だと感じました。

みなさんで考えたりする「ホッと一息定例お茶会」なども行っています。

——教員から起業家に転身すること、不安はなかったですか。

不安がなかった、と言えば嘘になるかもしれません。でも、自分の心に嘘だけはつきたくないなかつたのです。事業を続ける中でも順風満帆とは言いませんが、やりたいことは実現できていると思えますし、後悔はありません。一点悩むところと言えば、私は生粋の現場タイプで、子どもと接することも大好きなんです。ただ、私がずっと現場に入っているのは、自分の手の届く範囲だけで満足してしまい、教員を辞めた意味がなくなってしまう。もっと広い取り組みにしたいですし、時代を創っていきたいという想いがあるので、経営に専念しなくてはならない。その葛藤は今でもあります。

難しい問題ですね。こちらではどのような点が強みだと考えておられますか。

フィンランドは教育がとても進んでいて、当法人もそこから良いところを学び積極的に採り入れたいと考えています。フィ

じ、教員を退職したのです。

——その後はどのような活動を？

学校のゲストティーチャーや相談員として子どもたちと関わったり、北陸・関東・関西などの教育団体を渡り歩いて多様な教育の在り方についての視察を重ねたりしました。その後、地元・石川にて不登校の子どもや、障がいをもつ子どもを含む、すべての子どもたちの心に、明日への希望を灯すことのできる教育環境をつくりたいと「LYHTY」を設立。現在は学校に通わない子どもを対象とした学びの場「LYHTYschool -IRORI」、障がいのある児童生徒を対象とした児童発達支援・放課後等デイサービス「ともしびの家」などの事業を手掛けています。また、学校教員や学生、カウンセラーなど教育に関心のある方が集い学び合う1泊2日の研修イベント「Education FES」、子育てについてお話ししたり、悩み相談をしたり、教育について

志垣 太郎 (俳優)



「子どもたちの明るい未来を支えるという気高き目標を持ち、事業に邁進していただける佐々木代表。事業を推進する中では既成概念に囚われず、良いものを貪欲に採り入れようとする先人の明を活かし、より良い環境を、より良い時代を築いてほしいですね！」